

3. 松前町

松前町の海岸は、重信川の河口から南側に位置しており西方向に開けている。そのため冬は季節風の影響を受けて、ごみが漂着しやすい地形である。

本調査の対象地点は、船でしか上陸できない立入困難地域であり、松前町の海岸を船上から目視で確認したところ、全地域が陸からアクセス可能な海岸であった。そのため、松前町の立入困難海岸での漂着ごみ堆積地点は0であった。

しかし、これはあくまで立入困難海岸についてであり、陸からアクセスできる海岸や、陸からも船からもアクセス出来ない消波ブロックが整備された護岸に漂着ごみの堆積が確認できた。その一例として、図3の3カ所の状況を紹介する。



図3 陸からの調査地点

④ 地点

新川海岸の北側のこの地点は、海岸延長の長い自然の砂浜海岸で、近くに民家があり陸からのアクセスが可能である。

海岸には漂着ごみが散乱しており、定期的なごみ拾いが実施されている様子はなかった。

また、一部に消波ブロックが設置されており、消波ブロックの隙間にも漂着ごみの堆積が確認できた。



⑤ 地点

松前町筒井のこの地点は、海岸沿いに消波ブロックが設置されており、自然海岸ではない。道路側から消波ブロックを覗いてみると、隙間には大量のごみが堆積していた。

梯子が設置されている箇所があったが、ボランティア等による回収は危険で作業困難な場所である。



⑥ 地点

塩屋海岸の北側のこの地点は、自然の砂浜海岸になっている。シルバー・ボランティア活動などにより定期的に清掃活動が行われている様子であった。漂着ごみのない理想的な海岸である。

